

# 第20回 子どもの学びを創る会



主体的な学びをめざす単元の作り方

—指導計画 0次案からn次案への構想—

話題提供

## 単元づくりと指導計画のマネジメント

—子どもの事実で変更する指導計画—

提供者  
長門市立向津具小学校  
校長 芝田 秀 樹

### 1 子どもが学ぶ授業づくり - 教師に求められているもの -

我々は、子ども、学習材との関係を見つめながら、授業を創ることが肝心である。教師は子どもの学ぶ姿をどのように分析しているか、素材の中に教師はどのような価値を見出しているか、子どもと素材がどのような関係にあるのかなど、漫然と眺めないことである。この三者がきちんと関わっているかどうかを判断しながら、学習を進めることである。その判断基準は、子どもが本気になる学習過程かどうかである。

そこで、子どもが本気になる学習過程をつくる際の留意点を3つ挙げてみた。

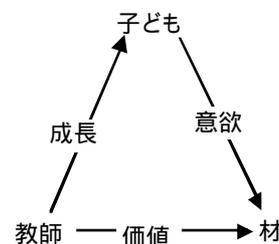
#### (1) 子どもに切実感のある単元をデザインする

- ・子どもが興味・関心をもつ素材から単元が構想できる。
- ・素材からどのように学びをつなげていくかイメージできる。
- ・学びのズレを見極め、修正できる。

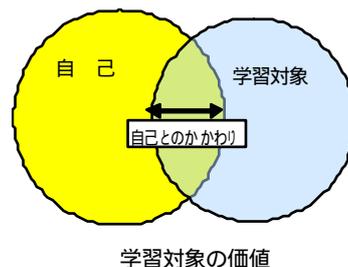
眼前の子どもの実態と単元展開のズレを見極める目

#### (2) 子どもが指導内容を取り込んでいく必然性もつ

素材の価値に対して、子どもはどのように関わりをもつのか、また、どのように指導内容とかわりをもっていくのか、確認しながら進める。



単元のデザイン力，  
リニューアル・リカ  
バリーできる力



(3) 子どもの学び姿を立体的に分析し、学びを仕組む

分析した確かな根拠を基に、子どもの学びを制御する。

- ・切実から離れ、必然が怪しい授業 成長実感
- ・何を学んでいるか（具体的な評価規準）

2 向津具小カリキュラムの作成

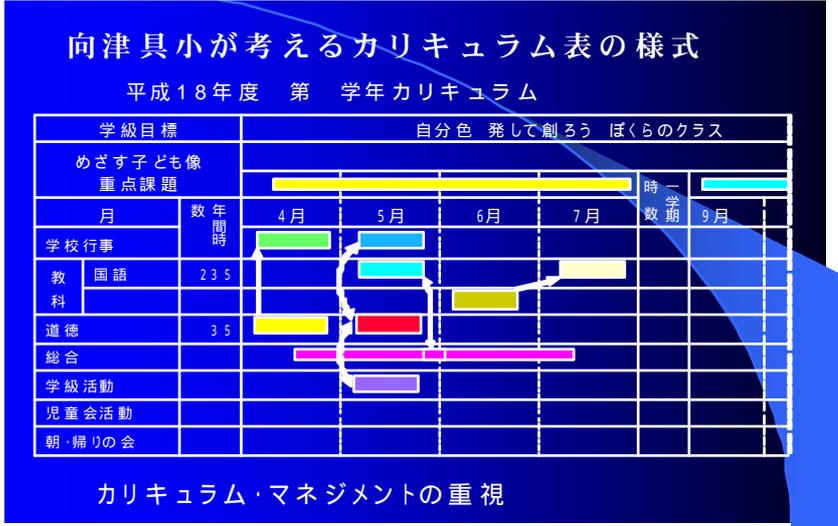
子どもたちが内なる思いを本気で表現したいと願うには、どのようなものと、あるいはどのような人とどう出会わせるかが大切である。そこで、子どもたちの学びのステージをふるさと向津具に置き、もう一度カリキュラムを見直そうと考えた。夏休みにカリキュラム作成に取りかかった。

カリキュラムは、年間指導計画ではない。学習と生活との関係もできるだけ一元化し、知のカリキュラムと心のカリキュラムの融合を図ろうとした。1年間、実践をした中で得た成果は必ず記載し、記載したものを実施カリキュラムとし、来年度の仮のカリキュラム（仮キュラム）に移行していきたい。

知のカリキュラムはあるが  
心のカリキュラムは？



カリキュラム作成の話し合い



**向津具小カリキュラムづくりで期待しているもの**

- 学ぶ意味や学ぶ必然性
- 学びの意識の連続
- 学級目標とめざす子ども像への達成
- 心の育成（心のカリキュラム）
- 学びの土台づくり

職員室での小さな変化

子どもの学びの姿の会話の増加  
必然的な学級間の情報交換  
保育園児の実態と小1年生の学級経営の再考